

氏名： 永瀬 伸子 (NAGASE Nobuko)  
所属： 人間文化創成科学研究科人間科学系  
職名： 教授  
学位： 博士 (経済学) / Ph D  
専門分野： 労働経済学  
URL： [http://www.soc.ocha.ac.jp/Site/Teacher\\_Nagase.html](http://www.soc.ocha.ac.jp/Site/Teacher_Nagase.html)  
E-mail： [nagase.nobuko@ocha.ac.jp](mailto:nagase.nobuko@ocha.ac.jp)

#### ◆研究キーワード / Keywords

女性労働 / 賃金構造 / 家族形成 / 非正規雇用 / 社会的保護  
Female Labor Supply / Wage Structure / Family Formation / Non-Standard Employment /  
Social Protection

#### ◆主要業績

総数 (4) 件

- ・永瀬伸子 (2008) 「日本的雇用と夫婦関係 『サラリーマンの生きがいに関する調査』と公的年金制度への示唆」財) 年金シニアプラン総合研究機構『年金と経済』Vol.27 No.1 44-54 頁。
- ・篠塚英子・永瀬伸子編著 (2008) 『少子化とエコノミー：パネル調査で描く東アジア』作品社
- ・永瀬伸子 (2008) 「人口減少時代の人口統計と社会政策」国友直人・山本拓編『21 世紀の統計科学 I 社会・経済の統計科学』東京大学出版会 61 - 87 頁。
- ・永瀬伸子 (2008) 「少子化、女性の就業とエコノミー」篠塚英子・永瀬伸子編著『少子化とエコノミー：パネル調査で描く東アジア』作品社 59-76 頁。

#### ◆研究内容 / Research Pursuits

- ①若年の非正規雇用がどれだけ安定雇用に入れているか、また雇用変動は家族形成にどのような影響を与えているか。 Increase in Non-standard Employment among the youth, the consequences on their career and also on their family formation. Also research on Japanese firms on why the company practices require long work week.
- ②日本の雇用慣行において、なぜ長時間労働が昇進に不可欠なのか、原因の解明とワークライフバランスの推進
- ③女性のキャリア形成のヒアリング調査
- ④失業から就業への推移確率の分析

## ◆教育内容 / Educational Pursuits

「労働経済学」「社会保障論」「労働経済学演習」「労働論」等を大学、大学院で教えています。まずは標準的な労働経済学の講義をしています。雇用と労働時間、失業と職探し、離転職や引退、労使関係、雇  
用者保護の制度などについてです。「労働経済学各論」は通常はテーマを決めた授業をしますが、今年は2年生の受講が多かったので企業での聞き取りを中心としたもう一つの労働経済学分野についての標準的な講義としました。社会保障論は家族と社会保障について考えます。大学院は主指導の修士学生が5名、研究生が2名で今年はいく方であり活発な参加の中、多様な分野の論文を読みました。博士は研究発表を中心とした授業を持ちました。また東京労働大学では企業の人事部等のサラリーマンを相手に女性労働の現状について講義をしたり、総務省統計研修所では統計を用いた計量分析の講義をしたりすることはほぼ毎年しています。

I teach different level of classes for Labor Economics and Social Policy. Spring courses in general covers various topics in Labor Economics, such as employment, unemployment, job search, job turnover, while relating to institutional aspects of labor in Japan, such as labor union, changes in wage policies at various companies, increase in non-standard employment, changes in law regarding to work rules and coverage of social protection. I had a course of labor economics for masters' students. I am a member of COE Program of 21st Century, and am conducting panel survey in Beijing and some of the results were also introduced at the class. I also had seminars for doctorate students.

## ◆研究計画

文部科学省の委託研究近未来事業、ジェンダー格差センシティブな働き方と生活の調和というプロジェクトが2008年10月から採択され、5年の研究ですので、日本社会の中で、女性がキャリアを持ち、かつ、家族も持てるという状況に何が必要か、企業や個人へのヒアリングや量的調査により、明かにしたいと考えています。

## ◆メッセージ

女性が働くことと、社会的な制度のあり方、さらには社会規範や家族のあり方は深くかかわっています。仕事と家族の両立支援策は、1990年代から行われているように見えますが、なぜ実効を伴わないのでしょうか。なぜ日本の女性の出産離職は今でも大変高いのでしょうか。そのメカニズムについて考察するには、一方では、社会への洞察が不可欠です。具体的には、企業の賃金制度や雇用慣行、法律の枠組み、税制や社会保障制度などです。その一方で、文化的な土台や家族の価値規範の研究も必要です。制度を調べ、聞き取りをし、大勢の人々の選択行動のデータを計量的に分析することで、要因を明らかにするのが私の研究です。私の属する講座や大学院のコースには、この問題を考える幅を広げるに良い学際的な土壌があり、この問題を真摯に考える人には良い場所を提供すると思います。